

第84回CSR-BOPウォッチの会合

『青年海外協力隊フィールド調査団、ガーナからの活動報告：
「オレンジ農家の実態調査と収入向上を目指して」
「聴覚障がい者 雇用創出プロジェクト」』

世界のグローバル化、また日本企業の新興国進出の増加に伴い、新興国経済やBOP(Base of the Pyramid)市場の理解の重要性が増してきています。これらをマクロ・レベルから考察したレポートは多いのですが、村の様子や個人の消費行動など、ミクロ・レベル／現場レベルの視点からの情報はなかなか見つけることができません。「青年海外協力隊フィールド調査団」は、そういったミクロな情報発信において、新興国の村落部で地に足をつけて活動している青年海外協力隊が貢献できるのではないかと、という課題意識ではじまったイニシアティブです。

途上国の村落部の家計がどうなっているのか、村でどのようなビジネスが可能なのか、村落部での教育・保健事情、ビジネスやマーケティング的な視点で村の生活を見たときにどういうインサイトが出てくるのか、等々、協力隊員の現場での活動に基づいた「気づき」を、プレゼンテーションやショート・ビデオの形式で発信致します。

今回は、最近ガーナから帰国された二人の発表です。

「オレンジ農家の実態調査と収入向上を目指して」
三上 志保 （活動地：ガーナ国アシャンティ州）

「聴覚障がい者 雇用創出プロジェクト」
丸山 ちさと （活動地：ガーナ国アシャンティ州）

小辻 洋介
IFC（世界銀行民間セクター部門）ケニア事務所 インベストメント・オフィサー

2015年5月22日（金）18:00 - 19:30

場所：東京国際大学法人本部4階多目的ホール
（JR高田馬場駅、戸山口から徒歩3分）

〒169-0075 東京都新宿区高田馬場4丁目2-3-23 (03-3362-9641)

東京国際大学法人本部への地図 <http://www.kef.ac.jp/map.html>

[講演内容]

「オレンジ農家の実態調査と収入向上を目指して」 三上志保

ガーナ南部のアダンシ・ノース郡ではオレンジの生産が盛んです。しかし、農家の実情は生産管理や流通の問題などにより多数のオレンジが市場に出ないまま廃棄処分されています。オレンジ農家の実態を詳しく調査し、廃棄される原因を明らかにすることにより解決方法を探り、さらに農産物の加工を促し、オレンジ農家の収入向上を目指したいと考え、調査を行いました。

The southern part of Ghana is quite active in producing oranges. Despite so, a large number of oranges are discarded before getting to the market, because of poor production management and distribution problems. In this report, I shall present findings derived from my fact-finding investigation to identify the causes of discarding and wasting oranges, and then discuss solutions to the problems, which are hoped to improve the income level of orange-producing farmers.

「聴覚障がい者 雇用創出プロジェクト」 丸山ちさと

協力隊員として、当初は聴覚障がい児の就学率向上を目指して調査を開始しました。しかし、低就学率の原因は、卒業後に就業出来ないことにあると分析、現在はNGO「タツノオトシゴ・プロジェクト（以下TOP）」を設立し、服飾を学んだ卒業生向けに「甚平・浴衣プロジェクト」を、調理を学んだ卒業生向けに「ベーカリー・プロジェクト」を、そして身体障害者が作成しているガーナ伝統的織物「ケンテ」の販売の3本柱を立てて活動しています。TOPの活動を通して見えてきた、途上国における障がい者雇用の成果と課題、途上国での製品作りと日本で販売する際の課題、伝統的製品を日本対象に販売するための課題等と、それらの解決案などについて報告します。

My fact-finding mission initially focused on the causes of low school enrollment ratio among young people with hearing disability. But finding the cause of its low ratio in the lack of employment opportunities after graduation, I have established an NGO called Tatsuno Otoshigo Project (TOP) to provide three types of employment opportunities: (1) for those who learned dress making techniques to produce Japanese summer casual wear for men and Japanese cotton summer kimono for women; (2) for those who learned cooking to bake bread in “Bakery Project;” and (3) selling Ghanaian traditional fabric “kente” produced by physically challenged youth. Based on such experiences in my TOP activities, in my presentation I shall report about the possibility and problems in employing physically challenged youth, issues which need to be solved to produce in developing countries and sell in Japan, and selling traditional products in Japan. My presentation also covers my proposal for solving these problems.

[講師略歴]

丸山 ちさと

H24年度2次隊（2012年9月～2015年4月、7か月の延長を含む）・青少年活動。協力隊フィールド調査団1次隊メンバー（ガーナ2014年）。神奈川県出身。2000

年大学卒業後、同年から2010年3月まで私立高校国語科教員として勤務。2011年英国・ブリストル大大学院修士（教育学）修了。2012年9月より青年海外協力隊に参加。ガーナ国アシャンティ州にあるアシャンティろう学校においてICT教員として配属され、小学部・職業訓練部の生徒にICTを教える。活動後半期は、課外活動として就業支援に取り組む。現在、ガーナ国のローカルNGO「タツノオトシゴ・プロジェクト」共同代表。同プロジェクトでは、短期的には聴覚障害者の雇用創出を、将来的には聴覚障がい児の就学率向上を目指している。

三上 志保

H25年度1次隊（2013年7月～2015年3月）農畜産物加工。協力隊フィールド調査団1次隊メンバー（ガーナ2014年）。岩手県出身。大学院農学研究科修了後、岩手県内の県立農業高校で農業科教諭として8年間勤務。2013年7月より青年海外協力隊に現職参加。ガーナ国アシャンティ州、食糧農業省アダンシノース郡事務所に農畜産物加工隊員として配属され、農民や配属先スタッフへ農産物の加工方法を教える。郡内で生産され廃棄処分率の高いオレンジの加工方法の開発と農民への普及、商品化等を目標に活動を行ってきた。現在は、岩手県内高校の教諭として復職している。